

第 41 年度（2025 年度）ソフトウェア品質管理研究会 分科会紹介

「より良い品質を求めてアジャイルは生まれた」

サイボウズ株式会社の永田敦です。私は「アジャイルと品質」の主査を務めております。この研究会を始めた動機は、「より良い品質を求めてアジャイルは生まれた」という私の考えに基づいています。

私たちは、顧客にとって価値のあるソフトウェアを、限られたリソースでタイムリーに提供したいと考えています。しかし、その価値がどのようなものか、現在開発しているものが本当に顧客にとって価値があるのか、その最終的な判断は、実際に顧客へ動くものを提供し、触れてもらい、運用してみなければわかりません。価値を強く感じる品質、すなわち魅力的品質を探索するために、イテレーティブに開発し、顧客に提供していく開発手法がアジャイル開発の重要な側面の一つです。

しかし、魅力的品質の一つを顧客に体験してもらうためには、その 10 倍以上の例外的なシナリオやエラー処理に対処しなければなりません。これらは当たり前品質と呼ばれます。この両者の品質を実現するため、ソフトウェアは複雑になります。さらに、魅力的品質は顧客からのフィードバックによって適応するため、ソフトウェアは絶えず変更や追加、削除が繰り返されます。その結果、ソフトウェアは複雑化し、技術的負債が増加し、変更が難しくなり、当たり前品質を維持することが困難になり、最終的には顧客への価値提供が滞り、信頼を失うこととなります。私たちのテーマである「アジャイルと品質」は、まさにこの問題を扱う研究会です。

近年では、生成 AI がソフトウェアシステムやサービスに組み込まれていますが、その品質評価は従来の検証方法とは異なります。この AI の品質評価手法にも、アジャイルの考え方が必要とされています。当分科会では、アジャイル品質に関する知見やフレームワークを研究していきます。社外の方々と課題に取り組み、研究成果を論文にまとめることで、より広い学びを得ることができます。研究で生まれたアイデアを現場で試行し、体験を通じて学んでいきたいと考えておりますので、研究員の方はアジャイル開発の現場に関わりをお持ちの方とさせていただきます。

副主査は、荻野恒太郎さん（株式会社カカコム）、アドバイザーは山口鉄平さん（株式会社 LayerX）という指導陣です。

- ◆主 査：永田 敦 氏（サイボウズ株式会社）
- ◆副主査：荻野恒太郎さん（株式会社カカコム）
- ◆アドバイザー：山口 鉄平 氏（株式会社 LayerX）